

【 57 】

氏名	上 野 脩 幸
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 775 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和 51 年 6 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学 位 論 文 題 目	放射状視神経乳頭周囲毛細血管の研究 第 1 報：蛍光眼底造影法による臨床的研究 第 2 報：猿網膜血管の樹脂鑄型標本の走査型電子顕微鏡的研究
論 文 審 査 委 員	教授 大 内 弘 教授 大 塚 長 康 教授 小 倉 義 郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

著者は、網膜の微小循環の生理と病理を解明する目的で、蛍光眼底造影法により放射状視神経乳頭周囲毛細血管 (radial peripapillary capillaries, 以下RPCs と略す) の臨床像を検討し、更に実験的に猿眼の樹脂鑄型標本を作製したのち走査型電子顕微鏡により立体的構築を観察した。

正常人網膜では多くの明瞭なRPCs像を得ることは困難であるが、網膜の循環障害を来す疾患 (虚血性・閉塞性疾患) において強調され、明瞭に認められることを発見した。しかし網膜の循環障害が改善されると、RPCs像は明瞭に認められなくなることも発見した。即ちRPCsは病変の種類、軽重によりその像を異にすることが分り、従ってRPCsは臨床診断上、また、経過の判定上、重要な情報を与えてくれるものと考え。臨床的に諸疾患においてRPCsの拡張、透過性亢進像を認めたがRPCsの立体的構築の観察により、RPCsにはお互いに吻合をもたず直進的な走向をとるものの他に、立体的な複雑な吻合を呈するもの、走向の途中でリングを形成しているものを発見した。即ちRPCsにおける血流速度は従来考えられていたより遅いのではないかと考え、ひいてはこれがRPCsの壁透過性の変化を受けやすい原因の1つであると考え。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は放射状視神経乳頭周囲毛細血管の蛍光眼底像を研究して諸疾患におけるその像の特異性を明かにする一方、猿の網膜においてこの血管の立体構築を解明したものであって、眼疾患の臨床および病態生理に寄与する価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。